

## ①子どもの皮膚トラブル!? 小児のアトピー性皮膚炎かもしれません

小児のアトピー性皮膚炎は、おおよそ1歳から小学校低学年くらいまでの発症が一般的です。中には強いかゆみを伴う場合があり、かき壊し<sup>\*</sup>も心配です。

当院は、最新の診療ガイドラインに準拠しつつ、診断から治療、指導までを一元的に行ってています。また、外用療法による指導には特に力を入れており、塗り薬の必要性や分量についても説明しています。その際は、説明内容が書かれた資料も差し上げています。

なお、外用薬で改善されない場合は、全身療法として注射による治療も行うことができます。

<sup>\*</sup>かゆみや不快感に耐え切れず、皮膚を過剰にかいてしまい、皮膚が傷つき炎症を起こしている状態。



小児科 科長 かまた まさ 鎌田 横 先生

## ②「食物アレルギーだから食べさせない、食べられない」は誤解です

現在の食物アレルギー管理の原則は「なるべく早期に食べられる量を確認し、食べていく」が主流です。また、これまで普通に食べられていたものを、症状が出ていないのにアレルギー試験が陽性反応だからと止める必要もありません。

中央病院では、アレルギーがあるか診断し、安全に食べられる量を確認するため「食物経口負荷試験」を実施しています。日帰り入院<sup>\*</sup>で行うため、アレルギー症状が出てもすぐに対応でき安心です。

## 食物経口負荷試験(Oral Food Challenge:OFC)

- ①食物アレルギーかどうか正確に診断する。
- ②食物アレルギーと診断された人に対し、食べられる量を確認する。
- ③OFCの結果に基づき安全指導を行い、食べられる量を自宅などで継続して摂取する。
- ④食物アレルギーが治っているか定期的に確認する。

<sup>\*</sup>副反応が強く出る場合は、1~2泊の入院が必要です。



食べられる量を自己判断することは非常に危険です。必ず医療機関を受診しましょう。



## 小児科の診察時間（要予約）

月～金曜日 午前9時～午後4時

受診の際は、かかりつけ医からの紹介状をお持ちください。

## 医療機関、子ども関係機関の皆さんへ

当院では、アトピー性皮膚炎に関する勉強会、講演を承ります。地域の集会などさまざまな場面で活用できます。ぜひお問い合わせください。



## ～上十三・十和田湖広域定住自立圏情報～

上十三・十和田湖広域定住自立圏内のイベント情報を届けします♪



東北町

公立ぎんなん寮 春の訪れ クリスマスローズと雪割草フェア

ゆきわりそう

とき 2月21日(土)～3月1日(日) 午前10時～午後2時

ところ 公立ぎんなん寮（東北町大字大浦字南平10-1）

直売所ハンズ、大温室周辺

問上北地方教育・福祉事務組合公立ぎんなん寮

☎ 0176-56-5121

## 販売品

園芸商品（クリスマスローズ、雪割草鉢花各種、観葉植物、多肉植物など）、福祉施設商品、ドライフラワーなど

